

地方小出版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## 出版舎 Mugen — わが社初の刊行物

### 後田多敦著『琉球の国家祭祀制度—その変容・解体過程』

文・上間 常道

私が定年退職を迎えたのは二〇〇三年だった。それまで約四十年間、河出書房新社、沖縄タイムス社などの出版編集部門で、さまざまな刊行物の編集に携わってきた。地元新聞社でやり残した企画の処理などに約三年を費やして、二〇〇六年、編集事務所を開設した。

社名は考え抜いた末、「出版舎 Mugen」とした。

「出版舎」ということばを捏造したのは、「社」という漢字が好きになれないからだ。どうしても「神社」や「社稷(国家)」ということばを連想させた。それに「舎」は「仮にやどる場所」というのが本来の意味で、つねづね、この世は仮の宿だと思っている者にとって、こちらのほうがふさわしいと考えたからだ。ことばの捏造がいけないことは重々承知しているつもりなので、「出版舎」は固有名詞の一部と見なしていただければと思う。

Mugen は日本語音声の「むげん」をローマ字表記したもので、「無限」(限界のないこと、終わりのないこと)と「夢幻」(夢まぼろし、はかなさ)を含意している。事務所開設のあいさつ文では「終わりのないことと終わりのあることとのあわいで、感受し、思考し、生活するために出版を起業した」などと殊勝なことを述べているが、心底では、「無間(むげん)地獄」に落ちていく、その入り口にいま立っているのかもしれないとも感じていた。

起業した際、三年間ほどは編集委託の仕事を中心に、つまり編集プロダクション的な仕事をこなして、ある程度資金がストックできた段階で本格的な出版業をはじめの計画を立てた。編集委託の仕事はそれなりに回ってきたが、資金のストックは思ったようにはいかず、三年は

あつという間に過ぎ去ってしまった。

とはいえ、三年目にしてはじめて、自社刊行物を出すことになった。

友人でもある著者から出版の相談を受けたのは今年の八月初旬である。十一月六日までに、とりあえず二十部でいいから刊行してほしい、というのが著者の希望だった。実質二カ月の編集期間で、三〇〇ページ前後の専門書を出すのは不可能と見て、いったんは断ったのだが、どうしても出したいという著者の熱意に根負けして、OKを出してしまっただのが八月下旬。それからは本書の構成や内容チェックやらで、連日朝早くから夜遅くまで、メールでやりとりしながら、作業を進めた。

ところが途中で、十月三十日までに一部を先行して刊行してほしいという。上製本なので、印刷会社にはスケジュール的には相当無理をお願いすることになったが、なんとか間に合わせる事ができた。それがわが社初の刊行物、後田多敦著『琉球の国家祭祀制度—その変容・解体過程』(A5判、三二〇ページ)である。

急いだわりにはいいものができたと自負している。なにより著者に研究蓄積があったこと、研究に対する問題意識が明確だったことが、一定の水準を確保することを可能にした。ただ、時間の制約から、索引を付すことができなかったのは心残りだった。

書店向けは十一月二十七日に納品され

たが、それからがたいへんだった。長年出版に携わってきたとはいえ、編集業務が主で、営業にはあまりかかわってこなかったから、地方・小出版流通センターへの発送、県の書店組合や本土大手書店の沖縄での支店などに配本して回るのは、けっこう骨が折れた。なにしろ、納品伝票の書き方も素人で、知人がやっている書店でもたまたましていると、「私が書きましょう」と記帳を手伝ってもらはめにもなった。

しかし、動き出した舟である。できるだけ永続的に刊行物を出していきたい。

沖縄全体を見渡すと出版不況が波及していることは明らかで、地元出版社はかつての元気を失っているように見える。

沖縄「県産本」が得意としたサブカルチャー分野が本土出版社に食われぎみであることに危機感を持つ編集者も多い。

とはいえ、ダイエーが撤退したあと空き家になっていた、私の事務所のまん前にあるビルに、ジュンク堂那覇店がオープンすると、客の入り予想していたよりはるかに多く、

老若男女が引きをきらないようすが窺いに見える。それほど、本離れが進んでいないことが確認できて、内心、うれしかった。読者のニーズに合う本を出せば、大量部数を捌くことができなくても、必ず売れるだろうと確信した。

私としては、沖縄という地域がもつ独自性をさらに深めていくような著作物を掘り出したいと願っている。片意地を張らず、気張らず、地道にやっていきたい。「無限」か「夢幻」か—それは神のみぞ知る？

(うえま つねみち/出版舎 Mugen 代表)



# 新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

## 『検証 秋田「連続」児童殺人事件』 ●北羽新報社編集局報道部著

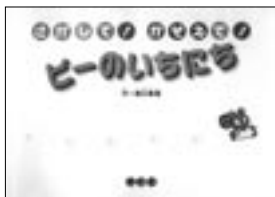


「いま考えると、どういう考えで事件を起こしたのか、よく分かりません」平成18年に起こった事件は当時、日本中を震撼させた。21年5月には無期懲役が確定し、現在服役中の畠山鈴香だが、被告人質問では冒頭のように事件の記憶がないことを繰り返していた。本書は過熱報道も収まった後、事件一年を期に裁判報道と同時進行の形で、深く取材してきた地元紙の連載をまとめ、

取材ノートを加えたもの。地域住民の再生にも触れ、また拘留所に面会に行き、彼女の現在の姿も伝える。一方で、長女の死に関しては、自白調書に頼りすぎた裁判に疑問を呈しつつ、未だ謎の残る事件を検証していく渾身のルポルタージュ。

◆1890円・四六判・271頁・無明舎出版・秋田・2009/10刊・ISBN978-4-89544-508-5

## 『さがして! かぞえて! ビーのいちにち』 ●清水眞理著



この本は、3～5歳くらいの幼児をメインターゲットにした、パズルの絵本である。子ども向けパズル本では、ただひたすら迷路を解くだけ、というものが多く、この本はストーリー仕立てになっていて、主人公(ビー)が朝起きてから夜寝るまでのさまざまな場面でパズルが登場する。パズルの数は10題とやや少なめ

だが、迷路やまちがいさがしなどバラエティーに富んでいて、いろんなタイプのパズルを解くことができる。この本でパズルに親しんで、新聞や雑誌に載っているまちがいさがしなどを親子で楽しめるようになれば言うことなし。遊びながら自然に頭を使うようになる、という本である。

◆1260円・B5判・22頁・ニコリ・東京・2009/11刊・978-4-89072-830-5

## 『日本写真集史 1956-1986』 ●金子隆一/アイヴァン・ヴァルタニアン著



写真評論家・写真史家として著名な金子隆一所蔵の写真集の中から写真集黄金期といわれる1960年代から1970年代の写真集60点を収録。写真家ではなくなぜ写真集なのか。その当時の日本はギャラリーや美術館などでの鑑賞する環境が十分ではなかった。しかし日本の製本印刷の技術は高く、写真家は表現の場として写真集に情熱と才能を傾けていった。細江英公・土門拳・東松照明・

篠山紀信・荒木経惟・森山大道・中平卓馬・奈良原一高等名を挙げれば知らないものの方が少ないだろう。希少本や私家版など実際に目にするのが困難なものも見られるのだから必読の一冊に値するのでは。

◆3990円・305mm×230mm判・239頁・赤々舎・東京・2009/11刊・ISBN978-4-903545-44-8

## 『歴史資料の保存と地方史研究』 ●地方史研究協議会著



社会構造の変化や平成の大合併などにより、地域に継承されて来た歴史資料の保存が危機にさらされている。加えて、その保存と研究拠点である公立の博物館や文書館施設への指定管理制度の導入と、予算、人員の削減が急激に進行し、地方史研究は憂慮すべき事態に至っている。そうした事態をどのように切り開いて行ったらいいのか。現場で日々問題に直面している学芸員、教育委員会

職員、研究者らが、資料保存の意義、管理と資料保存・電子化の現状、専門職のあり方や関係法の改正を含む未来を論じたものである。資料保存も研究も地域住民の意思によるものでなければならぬことが、共通の論点になっている。

◆2940円・A5判・194頁・岩田書院・東京・2009/10刊・ISBN978-4-87294-586-7

## 『プリーシヴィンの森の手帖』 ●ミハイル・プリーシヴィン著 太田正一編訳



「森と水の詩人」といわれる著者プリーシヴィン(1873-1954)は、二つの大戦とロシア革命を経ながら、モスクワ近郊やベテルブルグなどロシア各地を家族とともに移動し、暮らした。ナロード(民衆)と呼ばれる市井の人や農民などと交わりながら、森や草原、畑や牧草地に生息する多種多様な生きもの(クマゲラ、クロライチョウ、タシギ、セキレイ、キツネ、ヘラジカ、クマ、トガ

リネズミ、カワマス、ヤドカリ、ミツバチ、トンボ、クモ・・・)の生活を詳細に観察している。本書は、そこに昔話や伝説などをおりまぜながら、これらロシアの大地の自然と生きとし生けるものの営みを、ユーモラスにうたいあげる貴重な自然誌となっている。

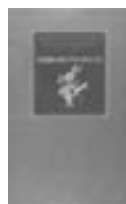
◆2100円・四六判・205頁・成文社・神奈川・2009/9刊・ISBN978-4-915730-73-3

# 売行良好書

期間：2009年11月16日～12月15日

## 【出荷センター扱い】※税込み価格

- (1)『機能不全家人』1600円・アートヴィレッジ (2)『作っておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局 (3)『ダジャ単ライブ! Vol. 1』1260円・エコール・セザム (4)『新装版 不思議の国のアリス・オリジナル』2100円・書籍情報社 (5)『ホットケーキ』1680円・東京子ども図書館 (6)『検証 秋田「連続」児童殺人事件』1890円・無明舎出版 (7)『ゆりちかへ』1365円・書肆侃侃房 (8)『こんにちは、昔話です』1050円・小澤昔ばなし研究所 (9)『イエスの涙』1995円・アートヴィレッジ (10)『アダルト・チャイルドが自分と向きあう本』1575円・アスク・ヒューマン・ケア (11)『巡航船』2625円・編集工房ノア (12)『日本写真集史 1956-1986』3990円・赤々舎 (13)『殺劫』4830円・中国書店



## 【三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書】※税込み価格

- (1)『東京かわら版 12月号』420円・東京かわら版 (2)『酒とつまみ 第12号』400円・酒とつまみ社 (3)『夜想 #モンスター&フリークス』1575円・ステディオ・パラボリカ (4)『19 Rooms』3675円・赤々舎 (5)『高尾山と八王子城』735円・揺籃社 (6)『清浄なる精神』1890円・信濃毎日新聞社 (7)『静岡の山城ベスト50を歩く』1890円・サンライズ出版 (8)『よみがえる滝山城』735円・揺籃社 (9)『安土 信長の城と城下町』2310円・サンライズ出版 (10)『福岡県の城郭』3500円・銀山書房

## 【ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書】※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『放っておいても明日は来る』1470円・本の雑誌社 (2)『サムライ・ノングラータ』1890円・フリースタイル (3)『To Do Books No. 2 BASIC MAGIC FASHION BOO』1000円・イージー・ワーカーズ (4)『エデュパ芸能ガイド 2010年度版』1365円・夏書館 (5)『おすすめ文庫王国2009年度版』798円・本の雑誌社 (6)『酒とつまみ 第12号』400円・酒とつまみ社 (7)『それでもあなたは新型インフルエンザワクチンを打ちますか?』1575円・ホメオパシー出版 (8)『砂上の同盟』1260円・沖縄タイムス社 (9)『福岡音楽散歩』1680円・書肆侃侃房 (10)『Bon Appetit 6』550円・Bon Appetit

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。  
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

## トピックス — ★★★

### ▼ジュンク堂新宿店「福岡」フェア

門外不出?の原画パネルや自腹仕入の本を開いたり、毎回破天荒なフェアで注目を集めているジュンク堂新宿店の「ふるさとの棚」フェアコーナー。今回は「特集：福岡」!。当初企画されたBOOKOKA(福岡の本好きが集まって様々なイベントを開催)とのタイアップは都合により縮小されますが、その熱いエッセンスが新宿に再現されます。約2ヶ月間、深く広く縦横無尽な活動を続ける福岡の出版社をクローズアップし、近刊日刊マニアックなセレクト本でこれを盛り立てます。12月15日～2月14日。

### ▼三省堂「地方・小出版」フェア

毎年夏のお盆前後の時期に開催されていた三省堂神保町本店4F 地方出版・小出版フェアが、今年は年末から年始にかけて行われます。12月19日～1月17日。

### ▼今井書店グループに菊池寛賞

さる12月4日第57回菊池寛賞受賞式が、ホテルオークラで行われました。本木雅弘さんと映画「おくりびと」制作スタッフの方々や初の外国人力士だったジェシーと高見山大五郎氏らとともに、山陰の「本の学校」を運営する今井書店グループが受賞しました。「地域から」を原点に、米子で「職能教育としての業界書店人研修」につとめてきたこと等が認められました。今井書店グループは、毎年当センターもかかわっているブックインととりや「地方出版文化功労賞」の主催者でもあります。

## 郵便販売のご注文方法

- ◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
  - ◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
  - ◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。
- ★地方・小出版流通センター  
 FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



# 三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

**神保町本店 4階**  
**地方出版・小出版物フロア**

営業時間 10:00 AM～8:00 PM  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1  
 TEL. 03-3233-3312(代)  
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

**営業の  
ごあんない**

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

